

31【P2】 I -344

生理活性を有するセスキテルペノイド Artemisinin および Parthenolide の微生物変換
橋本 敏弘¹, 野間 義明², 関田 理子¹, 岡田 佳子¹, 田中 正己¹, 高岡 茂¹, 浅川
義範¹(¹徳島文理大薬,²徳島文理大人間生活)

【目的】生薬中に含まれ、生理活性を有するテルペノイド類の有効利用の一環として、生薬青蒿に含まれ抗マalaria作用を示す Artemisinin (**1**)および西洋ハーブ、フィーバーフューに含まれアポトーシス誘導活性を有する Parthenolide (**2**)の *Aspergillus niger* などの微生物を用いる変換反応を行ったところ、興味ある代謝生成物を得たので報告する。

【実験および結果】化合物 **1** を Czapek-pepton 培地で *A. niger* を用いて4日間培養すると、ペルオキシド結合が還元された4種の代謝生成物 (**3, 4** など)が得られた。化合物 **2** を *A. niger* を用いて4日間培養すると、5種の代謝生成物 (**5** など)を与えた。

代謝生成物の構造は高分解能NMRスペクトル、X線結晶解析などにより決定した。また化合物 **1** および **2** の微生物変換における代謝経路についても考察した。

